

船越中学校便り

中 研 司

<http://www.funakoshi-j.edu.city.hiroshima.jp/>

自立と自律

最近、子供たちを巻き込んだ事件や事故が多発し、憂慮されています。中でも、子供たちが加害者となるケースを目にすると、犯罪を犯すべく生まれてくる子供はいないわけですから、その子を取り巻く大人たちが、その子を犯罪へと駆り立てるように仕向けていったとしか言いようがなく、遣りきれなさを感じます。

もちろん、子供を犯罪者にしようとする大人はいないと思いますが、われわれ大人の子供たちに対する対応が、問われているように思います。

現在の船越中学校の子供たちの中に、そのような状態に追い込まれている生徒はいないと思いますが、近年、子供たちを見ていて、気になる事があります。そのひとつは、何か間違っただけをした場面を注意されたとき「僕だけじゃあない。」とか「あの人もしている。」といった反応をする子供が増えてきていることです。あたかも、注意したことが悪いかのような言い振りで。

もちろん、注意されることやしかられることが、好きな子はいませんから、このような反応の裏には、いやなことから逃れたいという思いがあるとは思いますが、あまりにも幼稚な反応です。発達段階からいって、小学校の子なら、あることとは思いますが、中学生になっても同様の反応をすることは、社会人としての基本となる「自律」が未熟なわけですから、非常に気になります。

このような子どもが増えた裏には、この反応に問題意識を持たない、あるいは見逃してしまっている、我々大人の指導があるのではないのでしょうか。

二つ目には、鍵やノートを職員室に持ってきた生徒が、黙って戸口に立っていることがあります。どうしたのかと尋ねると、「先生これ」とか「ノート」といった答えが返ってきます。「先生は、いっぱいいるよ」とか「それで」と言うと、立ち往生してしまいます。これもまた、非常に幼い反応です。これで本当に「自立」できるのかと心配になってきます。

未熟であるとか、幼い状態は、子供らしくてほのぼのとした情景をかもし出すこともありますが、子供たちは、いつまでも子供でいることはできません。自立(自律)した大人となって、次の社会を支えていける人間になってもらわなくてはなりません。

子供たちの5年後、10年後を思い描きながら教育にあたらなければと反省しきりです。

3年生が、修学旅行に行ってきました

5月26日～28日の3日間、関西方面に修学旅行に行きました。(今年度は、2年生も10月下旬に関西方面に修学旅行に行く予定です。)



3日間とも天候に恵まれ、快適な修学旅行となりました。

特に、2日目の京都市内の班別自主研修では、各班が思い々の研修場所を選び、自分たちの力だけで、徒歩や乗り物を使い継いで研修して回りました。

3日目には、「私の仕事館」で将来の仕事の適性テストや様々な職業の体験をしました。



全学級、合唱祭に向け、気持ちをひとつに！

今年も、7月10日(木)の午後、安芸区民文化センターのホールで、合唱祭を行います。

どのクラスも、今年こそは最優秀賞を取ろうと、選曲から力が入っています。今週からは、帰りの学級会から練習を始め、パート練習や、各パートをあわせての練習など、大きな声が聞こえてきます。例年、体育館や武道場の練習時間の割り当てでも出来るだけ目一杯使おうと練習会場への移動、集合も迅速で目を見張るような意欲的な動きです。

このような様子を見てみると、生徒たちに明確な目的と高い意欲を与えることが出来たならば、生徒のエネルギーやその集中力には、ものすごいものがあり、願わくば、このような生徒の姿をあらゆる教育活動の場面に出現させたいものだという願望を抱かずにはいられません。

今年も、生徒たちの合唱の出来上がりが楽しみです。多くの地域・保護者の皆様のおいでをお待ちしています。